

平成30年度 第4回 豊岡市子ども・子育て会議要約版（議事要点録）

日時	平成31年3月27日（水） 13時30分～15時10分
場所	豊岡市役所本庁舎 3階 庁議室
出席者（委員） （事務局）	横川会長、大木本副会長、中村委員、松原委員、大田委員、西村委員、中嶋委員、上崎委員、與田委員、西垣委員、間委員、久保川委員、今井委員、阪根委員、堂垣次長、宮本課長、福富参事、山根参事、富岡参事、吉谷主幹、谷垣係長、安原係長、成田主査、((株)関西計画技術研究所 大内)
欠席者（委員）	小山委員、谷垣委員、藤井委員、神尾委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 (1) 協議事項 ア 平成31年度特定教育・保育及び特定地域型保育事業について 資料1～2 (ア) 利用定員について (イ) 量の見込みと確保状況について イ 平成31年度実施予定の特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確保方策について 資料3 ウ 第2期子ども・子育て支援事業計画について 資料4-1～3 (ア) 市民ニーズアンケート調査結果について (イ) 工程表（案）について (2) 報告事項 資料5～8 ア 平成31年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について イ 平成31年度豊岡市一般会計予算主要事業の概要について (子ども・子育て支援関係分) ウ 小規模保育事業所の概要について エ 第2回豊岡市における幼児教育・保育および放課後児童のあり方検討部会の協議内容について 4 その他 5 閉 会
配布資料	資料1 平成31年度特定教育・保育及び特定地域型保育事業の利用定員について 資料2 平成31年度特定教育・保育及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況 資料3 2019（平成31）年度実施予定の特定教育・保育及び特定地域型保育事業の確保方策について 資料4-1 豊岡市子ども・子育て支援のニーズに関するアンケート調査結果報告書（概要） 資料4-2 豊岡市の現状 資料4-3 第2期子ども・子育て支援事業計画策定工程表（案） 資料5 平成31年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況

- 資料6-1 平成31年度地方創生の取組概要（子ども・子育て支援関係分抜粋）
- 資料6-2 平成31年度主要事業の概要（地方創生事業以外）（教育委員会関係分）
- 資料7 小規模保育事業所の概要について
- 資料8 第2回豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方検討部会の概要

議事要点録

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	議事（要点）	
	(1) 協議事項	
		<p>ア 平成 31 年度実施予定の特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について</p> <p>アー（ア）利用定員について</p> <p>アー（イ）量の見込みと確保状況について （異議なし）</p> <p>イ 平成 31 年度実施予定の特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の確保方策について</p> <p>委員 子どもの数が 0 歳児から少し増えているようであるが、その後の子どもの数の変化で、事業所の数をどう増やしていくのかということについて、将来的にどのように考えているのかお聞きしたい。</p> <p>事務局 人口推計と児童数の見込みを立てて計画をつくるが、なかなか実際と合わない部分もある。検討部会では、細かな数字で精査していく中で 2020 年度以降のあり方を検討して策定し、豊岡市はそれに則った形で整備していきたいと思っている。</p> <p>できるだけ乖離が生じないように、あるいは小規模保育事業所が余って逆に困るということがないようにと考えている。</p> <p>ウ 第 2 期子ども・子育て支援事業計画について</p> <p>（ア） 市民ニーズアンケート調査結果について</p> <p>委員 休日等を含めて、放課後児童クラブの利用者があまり多くなく、長期休暇の時には利用したいという保護者の方が多いというデータが出ている。それに対しての取り組みについて、行政はどのように考えているのか。</p> <p>事務局 放課後児童クラブについては、アンケート結果にも表れているように土曜日の利用が少ないということで、場所を限定して何か所かを集約して開設している状況である。</p> <p>委員 夏季休暇、冬季休暇などの長期休暇の場合は開設しているのか。</p> <p>事務局 日曜日以外はずっと開設しており、その場合は朝からやっている。</p> <p>事務局 放課後児童クラブの長期休暇については、21 ページから 23 ページの「9. 放課後の過ごし方（小学生）」、「2）放課後児童クラブの利用意向」と「4）長期休暇中（夏休み・冬休み等）の利用意向」のデータでわかる。平日は 50.9% であるが、23 ページの長期休業中は 60.9% と 10% も高いので、おそらく長期休業中だけ利用したいというニーズが、このアンケート結果から把握できる。</p> <p>委員 学校があれば保護者の方が少しの時間離れていてもいいが、長期休業で朝から学校がない時間は利用したいという気持ちだが、10% 増加しているのかと思う。4 月から申し込まないと入れないといったようなことなども聞く。</p>

	夏休みだけの利用の募集はしていないのか。
事務局	お世話をしていただく支援員支援補助員の確保について、長期休業中に限定して増えるということがきびしいという事情もあり、今は通年利用としている。中には夏休みが終わると退所されるという方もいる。
委員	アンケート結果の報告の中で、豊岡市の福祉の関係の満足度がやや低いというような現状があるように思えた。それについてはどのようにお考えか。
委員	23ページの「10. 豊岡市の子育て支援に対する満足度」について、「普通」が多いが、その次は「やや低い」が多い。少し満足度が低いと思える数値がデータに出ているが、どうしてこの結果なのかについての考えを聞きたい。次の「子育て支援事業計画」を策定する時も、大事なポイントとなると思われる。
	午前中の検討部会の資料でもこのことが記載されており、保育料の問題と待機児童の問題が記載されていたが、果たしてそうなのか。
事務局	確かに但馬地域の近隣の市町村の保育料と比較すると、豊岡市は少し高い傾向にあると思う。満足度についても、自由記述等記載欄を見た中で、乳幼児医療費の助成が他市町村に比べると少ないということが書かれており、こういったことも原因と考えられるのかと思われる。
委員	そういったことへの対処はどう考えているのか。
事務局	保育料については、来年度の10月から保育料の無償化がスタートするので、少しはこういったニーズに対応できるようになるかと思う。
	乳幼児医療費の助成については、担当課ではないが、豊岡市として子育て支援策を考えていく中で、総合的な判断をしているということもあり、乳幼児医療費に特化して助成をしていくという考えは今のところない。
委員	このアンケートの「子育て支援に対する満足度」の項目について、全国で同じ質問はあるのか。豊岡市民が自分自身の判断として、「これは高い・これは普通・これは低い」と思っているのか、他自治体と比べての評価なのか。仮に他市町村と比較しての評価であれば、他でも同じ質問の項目があり、それより高いか低いかということがわからないと比較できないと思う。
事務局	国が推奨しているアンケートの内容は就学前児童についてのみ示されているが、満足度については入っていない。ベネッセなど色々な調査研究機関の結果があれば、参考資料としてご報告できるかと思うが、現状は調べていないので、ご報告できない。
	この項目に関しては、独自に色々な自治体が入れていると思うが、特定の市町村と比較するというのは良くないと思われる。今満足度が低いということが先行しているが、50%くらいは「普通」となっているものの、「城崎地域」では、「やや高い」という割合が他地域より多い。なぜ「城崎地域」だけそのような回答なのかということ、色々な調査をしながらもっと深掘していければと思う。
委員	共通質問ではないが、問いかけの仕方が微妙に違ったりするので、直接は比べられないかと思う。

委員 他市町村と比べるというよりは、自分自身が今、豊岡市の現状をどのように受け止めているのかということをお返されたいと思うので、その部分を行政がどのように受け止めるのかということをお聞かせください。

委員 「子育て支援に対する満足度が低い」と感じている方が、一定数いるということは間違いない。

委員 イメージではどの自治体でアンケート調査しても、おそらく同じような回答になるかと思う。満足しているという市民はおそらくいない。その中で施策にどう反映していくかということで、中身についてもう少し他の分析をしてみないと、わからないのではないかと思います。

事務局 前回のアンケート調査と、大きくは変わっていない。1番人口の多い旧豊岡地域の子育てサービスのニーズが対応できているのかというところで、このようなデータになっているのかと思われる。子どもの療育の問題、保育料に関しては朝来市と比較されてしまうが、上限が23,000円と太刀打ちできない金額となっている。隣の京丹波市や福知山市など豊岡市と一定規模の似ている市域と比べると大きくは変わらないので、豊岡市の人口規模の問題や、財政の関係で下げられないということもある。今回のアンケート調査結果を踏まえて、次の計画で対応できるのかを考えていきたいと思っている。

委員 「城崎地域」だけ満足度が高いということで、それがどこまで信頼できるかはわからないが、その要素があると考えられる。それは色々調査等分析をしてみないとわからないが、今回この調査結果を分析していただいた中で、そういうヒントとなるようなものは、出てきていないのか。

事務局 自由記述で医療費などの費用の内容が多かったのは確かである。保育料などを下げて、現場の人の無理が起きないか、地方では保育士の確保が困難である。和歌山県を例にすると、和歌山県で働くのであれば大阪府で働くほうが給料は良いので、わざわざ大阪府内の保育所に通われている保育士の方がいる状況もある。地方で保育料を下げることで影響が出て、運営すらできない状況になってしまう可能性もある。保育料を下げるということで満足度は高くなるかもしれないが、状況として悪くなる可能性もあり、一概に費用を下げるというのは難しいので、全体的に考えることが重要である。

まだ全体を細かく分析していないが、他のアンケート調査結果とこのアンケート項目で見えることもあるかもしれないので、他に何か見方がないかということをお聞かせください。

委員 「満足度が低い」というのはどういう理由で低いのかということが、1番知りたい。「竹野地域」と「城崎地域」では何か特殊な要素があって、そうなっているのか。このアンケート調査結果では「竹野地域」と「城崎地域」がでてきているが、それをもう少し深掘りしていかないと、ただ数字が出たというだけではいけない。もう少し踏み込みがないという感じがする。

事務局 「城崎地域」の満足度が高いというのは、回答の数自体が少ないので、データ上どうかということはあるが、「城崎地域」だけで見ると、小学校が1校、

中学校が1校ということで選択肢として1つしかないので、この結果につながっているのかと思われる。

委員 データだけではなく、地域の実情を知っていないと、読み取りが難しいと思う。

委員 例えば日曜日も旅館を開けていて、休日も対応できているというあたりが理由かと思われる。

ウ 第2期子ども・子育て支援事業計画について

(イ) 工程表(案)について

(承認)

(2) 報告事項

ア 平成31年度放課後児童クラブの量の見込みと確保状況について

委員 「3. 放課後児童クラブ待機児童」の平成31年度(見込み)の3人というのは、満員のところに申し込んで、入れない子どもが3人いるということか。

事務局 11月30日ということで申し込み期限を決めて受付をしていたが、利用期限までに申し込みがあった方については全て受け入れをしている。期限後に申し込みがあった方についても、利用調整して受け入れをしているが、放課後児童クラブによっては、スペース上どうしても入れないというところもあり、空き次第ということで、待っていただいている。

イ 平成31年度豊岡市一般会計予算主要事業の概要について(子ども・子育て支援関係分)

委員 「ファミリーサポート」のことでお聞きしたい。現在すすめているのは承知しているが、今のところ知らないという方もいる。そういう中で周知徹底をしていくと記載されているが、どういった形でやっていくといいのかということが気になる。子どもを預けたいけれど、預け先がわからないという方もいる。その場合市役所で聞いてもらうようにお話しするが、その辺のシステムをもう少し考えて欲しい。

事務局 広報の仕方については、議論をしている。豊岡市の広報やホームページ、子育てセンターなどの各種事業所にも、職員がPRのために行っている。また、最近多いのは会員様同士のつながりや会員様の友達の口コミで広がっていくということで、会員様同士の交流会を開催し、友達を連れてきていただくようなこともしている。会員登録をしていただき、会員の中でコーディネートしていただく、ご依頼に合った方を紹介させていただくという制度になるので、まずは会員登録をしていただきたいと思います。各振興局に出張して、登録していただくということも行っているので、広報での登録日のお知らせというものがメインになっている。何が効果的かということについては、引き続き検討していきたい。

委員 今会員数が158名と記載されているが、この会員数というのは、預かる側か、預けたい側か。

事務局 全員の会員数となっている。

委員	地区ごとにどれくらいの会員数か、わかるような仕組みはないのか。そういうことも情報源としてあっても良いのではないか。
事務局	数字は常に最新のものを把握している。「豊岡市子ども・子育て会議（第5回）」の時には提示させていただく。
事務局	今この資料には158人（1/31現在）と記載しているが、最近では170人を超える人数になっている。預かる側の「まかせて会員」、預けたい側の「おねがい会員」と、両方に属している「どっちも会員」がおり、合計が170人超えとなっている。正確な数値は今わからないが、「まかせて会員」だけになると40人くらいとなっている。「おねがい会員」は預けたいという要望があれば窓口に来ていただき、登録をするという形であるが、「まかせて会員」は少しハードルが上がり、救命救急講習や保育の講習など規定講習を受けていただき、正式な登録になる。その講習の機会が年間を通じて頻繁にあるわけではなく、救命救急講習の場合、消防署に来てもらうということで、今のところ、春と秋の年に2回くらいしか開講できていない。今後は規定講習も回数を増やして、「まかせて会員」を増やしていきたいという考えなので、全体の会員数も「おねがい会員」も増えていくのではないと思われる。 仕組みとしては、まずは登録をしていただく。そして「おねがい会員」と「まかせて会員」が全くマッチングをしていない中で、いきなり預けるのは子どもにも親にとっても不安があるので、あらかじめ適当な方同士に会ってもらい、お互いに面識を持っていただき、双方が納得した中でペアリングをし、それ以降必要な時に預けていただくようになっている。1度預けてうまくいくと信頼関係ができるので、次回からは双方でしていただくという仕組みにしている。1番最初のマッチングの段階が難しい。
委員	マッチングをする回数などについては、具体的に考えていないのか。
事務局	マッチングについては随時やっている。
委員	私は竹野地区で「まかせて会員」に申し込んでいる。竹野町で3名はいるが、豊岡地域や日高地域は非常に不足している。6月に講習会があったが、なるべく個人的に発信していこうという意識を持っている。1番良いのは、地域のコミュニケーションというか、井戸端会議なので、自分自身でもそういう意識を持つように心がけている。
委員	「FMジャングル夢チャレンジ」は、子どもたちが夢を見る、そのために発信していくということであると思う。これはどこの学校の生徒でもできるのか。但東地域にはFMジャングルは入らないと思う。但東地域の子どもたちにもそういう機会を与えていただいているのか、そういう場所に出向いてチャンスを与えていただいているのか。2008年度からなので、どこの学校にもそういう機会があるのかどうかをお聞きしたい。
事務局	「FMジャングル夢チャレンジ」については、こども育成課、生涯学習課、こども教育課の三課で、色々な学校行事やイベントの取材をFMジャングルの方にお願ひし、その場に出向いて取材をしていただき、放送で流してもらうと

という仕組みになっている。放送の関係で入らない所もあるかもしれないが、どの学校にもまんべんなくそういう機会をピックアップして、情報提供していただいで実施している事業となっている。行政からFMジャングルに情報提供し、FMジャングルが取材に行き、インタビューしたりして、放送を流していただいでいる。

委員 「04-01 53おっとりっしゃ！とよおかのものづくり」、「04-01 54ふるさと教育推進」、「04-01 55子どもの野生復帰」について、3事業の参加対象はどうなっているのかということが聞きたい。全ての子どもたちが参加できれば良いと思うが、なかなか難しいかと思うので。

事務局 担当課が生涯学習課となるが、通年型については現在100人募集していると聞いている。募集が始まっており、約30名程度の申し込みがあるということである。小学校や幼稚園・保育園を通じて配布し、申し込みをいただけるようにしており、ホームページ等でも参加を募っているので、たくさんの方に参加してもらえればと思っている。単発型については、イベントごとでの募集になる。おおむね30人から40人だったと思うが、その時だけしか参加できないという方については、単発型を申し込みいただければと考えている。成人対象というものもあり、保護者の方も参加してほしいと思っている。

委員 保護者がそこに連れて行かないと参加できないのか。

事務局 現場までは連れて行っていただき、そこで子どもが参加するという形になる。

委員 これをする地域は豊岡市全体なのか。それぞれの地域でやっていただく方が参加しやすいという方もおられるので、その辺りを考えていただければ。

事務局 実施する地域は豊岡市全地域ではない。実施する場所は日高地域の事業所となっており、日高地域、竹野地域などできるだけたくさんの地域を使って行うということになっているが、全地域ではなかったと把握している。

委員 「04-03 子どもたちが豊岡で外国人とのコミュニケーションを楽しんでいる」について、小さい子どもから高校生までという形で事業を組んでいる。これに関しては国も方針を出しており、いいと思うが、豊岡市が投資した結果について具体的に見えるようにされているのか。

事務局 子どもの力ということなので、なかなか目に見える形にするというのは難しいが、例えば小中一貫教育を始めて、就学前から中学校まで全てを通し、英語の力がつけられるよう、英語遊びから始まって英語活動を行い、来年からは教科になる。

小さい頃からずっと英語で遊びながら、親しみながらやっていき、小中一貫教育の中で、最終的には中学校の3年生の時に、豊岡市についてコミュニケーション能力豊かに英語で語れる子どもを育成するというので、最後のスピーチをするということにつなげていきたいと考えている。今年は3年目となるので、今までの成果については評価をしていこうと考えている。

委員 中学生までは豊岡市として計画しており、それ以降については関係ないとい

	うことか。
事務局	豊岡市には市立高校がないが、そこまで頑張っていることもあり、どこかで英語専攻の科ができないかと思っていたが、外国語コースができた。そこに対して、16ページに記載されているように、「04-03 60 豊岡の未来を創る高校生支援」ということで、10人の方にカナダ・ビクトリア市に行っていただくための経費の一部を補助し、中学までやってきた事業を高校でも引き続きやっていくために制度をつくり、支援をしている。
委員	結果的に人材の流出にならないか。
事務局	そのためにふるさと教育をして、帰ってきてもらえるような取組みにつなげていきたいと考えている。専門職大学もできるので、何とか豊岡市にそのまま残ってもらえる人が増えるといいと思っている。
委員	先ほど10人の方に補助をしていると言われたが、これは継続の事業なのか。
事務局	今のところはそうであるが、何年継続と決まっていないので、毎年予算の中で決定していく。
委員	それぞれの課で色々なパンフレットを作っているかと思う。そういったものがどれだけ市民の目に触れているかということも、もう少し考えてほしい。そういうものを目にできない方もけっこういるので、そういう点はもう少し頑張ってもらいたい。
委員	今は子どもが小さいので、総合センターや各支所の子育てセンターを利用しており、色々な事業についての情報も耳に入るが、子どももこの春から3年保育に入る。そういう場所に行かなくなると、貼ってある紙を見ることも少なくなってしまうと思う。広報もすみからすみまで読めばいいが、なかなか読めなかつたりするので、今であればフェイスブックやツイッターのほうが見やすい気がする。
事務局	豊岡市の広報では「マチイロ」というアプリがある。自分が1番よく見る項目を登録していただくと、それがアップされ、見られるようになっている。広報を全部見るのは大変だという方については、アプリを使って登録していただければ、関心があるものだけでも見られるような形になるので、ぜひご利用いただきたい。
	広報誌やホームページ、チラシなど、できるだけ色々な機会を通じて、周知徹底していきたいと考えている。
委員	保育士の不足ということをよく聞く。豊岡短期大学という短期大学があり、保育士や幼稚園の先生を育成する学校があるが、そこで保育士の免許を取った方を採用するのは不可能なのか。短期大学を卒業するだけで、保育士になる方がいないのかどうかはわからないが、毎年ある程度の学生がおり、そこから来ていただくというのは難しいのか、他の場所に行ってしまうというのが現実なのかをお聞きしたい。
事務局	豊岡短期大学にも出向いて、学生の方たちとお話ししている。毎年ではないが、大体の傾向として卒業生の半分くらいの方が、保育士以外の仕事に就職さ

れている。また、豊岡市出身ではなく、京丹後市や他地域から進学される方はそちらに戻る。あるいは都会志向があるということもある。中には豊岡市に就職されていることもあるが、公立、私立でもまずは正職員になるということで、選考からもらえるというようなこともある。そのあたりの募集枠を、地元として増やしてもらえないかという意見もある。全員の方ではないが、一度は都会で働きたいという方が多いようである。

全国で保育士確保に向けて色々な施策されているが、兵庫県では明石市が1番良く、家賃補助は8万円となっている。東京では家賃が高いので、10万円くらい補助しており、生活するのにも負担が少ないということで、保育士を獲得されている。豊岡市としては長期的な戦略として、保育士確保推進事業を実施しており、金銭的だけではなく、働きやすく、働き甲斐のある職場に変えていきたいということがある。一時的でもどういう政策を打たないといけないかということ、今検討している。

委員
事務局

豊岡市の出身の学生はどれくらい豊岡市に就職されているのか。

数字としてはわからないが、大学の職員の話では、都会志向が強いというほどではなくて、地元志向の学生もいるようである。

イ 小規模保育事業所の概要について

(異議なし)

エ 第2回豊岡市における幼児教育・保育および放課後児童のあり方検討部会の協議内容について

(異議なし)

4 その他	翌年度開催回数(増)、日程決定(急な場合あり)のお願い(事務局)
5 閉会	副会長あいさつ